

山中だより

山中 してもらう
キャッチ させられる人から
フレーズ する人へ

枚方市立山田中学校 学校通信 第10号

発行 令和元年7月19日 校長 交久瀬 善浩

★難しい内容かもしれませんが、夏休みを利用して、自分なりの学習について考えてみてください。

◆◆あなたは、学習(勉強)を何のためにしていますか◆◆

と問われたとき、あなたはなんと答えますか。考えてみてください。あなたが学習する必要について。次のように答える人が多いのではないのでしょうか。

- | | |
|---------------------|------------------|
| ① 親や先生に言われるから。 | ② しないといけないから。 |
| ③ みんながやっているから。 | ④ 自分だけしないと不安だから。 |
| ⑤ 勉強しといたほうが良さそうだから。 | ⑥ 義務教育だから。 |
| ⑦ 良い大学・高校に入学できるように。 | ⑧ 良い会社・就職先にいくため。 |
| ⑨ 希望の職業に就きたいから。 | ⑩ 自分の(将来や成長の)ため。 |

上の答えのどれもが間違いではないし、正解でもありません。何故なら、**勉強は理由の如何を問わず、あなた自身が決めて、あなた自身がすること**だからです。

ただ、あなた自身が勉強すると決めたときの理由によって、勉強の成果や伸び、そして身につく内容に大きな差が出てくるという事実があります。



まず、上の理由で①の「親や先生に言われるから」勉強しているという人は成果があまりでず、内容もテストで高い点が取れるだけのそのとき限りのものになっている可能性が高いです。さらに、「勉強の仕方がわからないからできない」などと理由をつけて勉強をサボる傾向も強く、勉強が出来ないことを他人や他のことの責任にして、自分の責任という意識を持つことが少ないです。さらに言えば、自分の好きなことだけをして他の事は考えたりやったりすることが少なく、与えられたことや言われたことだけをする人になる傾向が強くなります。与えられた環境・与えられたものでしか生きていけない・自身の力や考えで自分を保てない、というような人にならないか心配です。



次に②～⑥の雰囲気や他から影響による受身的動機による場合も、上記①と同じような結果になる可能性が高いです。ただ①の理由の人よりは自発的な動機が含まれるため、勉強する時間や期間が長くなったり、内容的にも自発的な学習内容が含まれるようになってきます。

では⑦・⑧の理由により勉強している人はどうでしょうか。この場合、「良い大学・高校」や「良い会社・就職先」の設定で、多分に他人の影響を受けているとはいえ、少なくとも自発的な欲(認証欲や自己顕示欲等)による動機なので、①～⑥による理由よりはるかに学習意欲も学習効果も高くなります。また勉強から理由をつけて逃げることもなくなるでしょう。

ただ、注意しなければならない点がいくつかあります。その一つは、目標を到達したあとに「燃え尽き症候群」のように目標を失って、大学で勉強しなくなって遊びほうけたり、就職後に仕事をすぐやめてしまうケースです。このケースには落とし穴があると思います。

それは、この理由を「本当に本人が考えついたのか」という点です。親の考えが押し付けられた結果、本人が思い込んでいる場合や、塾など世間の情報によって本人がこのように思い込まされていないかということです。この場合、勉強方法や勉強そのものも塾や他人に頼ってやっているケースが多く、「燃え尽き症候群」になる可能性がかなり高まります。

(裏面へ)

最後に、⑨・⑩の理由により勉強している人についてです。この理由をあげている人は、ほとんどのケースで勉強の理由が自発的・内発的な要素によって成り立っています。

従って、勉強から逃げることもなく、勉強がはかどらないときもできない理由を他人の責任にすることもなく、学校の勉強だけを勉強だと思わなくなり、生涯にわたって勉強し続ける姿勢ができるでしょう。

但し、⑨の理由で自分の希望の職業を親や周囲から押し付けられたり思い込まれたりしていない限りにおいてはですが…。

そして⑩の理由により勉強している人は、完全に精神的に自立している可能性が高く、周囲の雰囲気や押し付けにも負けない強さもあるので、他人に頼らない自力での学習も可能だし、また将来的に自分のための勉強が他人を助けるための勉強に変化すれば、6月の鬼丸氏のような人物になったり、名医になったり、世の中から本当の意味で求められる人材となっていくでしょう。

(学力とは)

学習(勉強)する理由は、学習する力(原動力=自発的な学習動機)につながります。学習する力は、**＝学力です。つまり、学力とは、自身の求めるもののために、自分自身の中から湧いてくる学習に対する原動力なのです。**

(学力をつけるとは)

人の心のエネルギーは「欲」です。「欲」はその人の心にしか存在しません。その人の「欲」はその人自身の中でしか成長できないし保つことが出来ません。すべてその人の自発的・内発的なものです。つまるところ「欲」をもつことが、学力につながるのです。(「山中だよりNo. 9の「野望をもとう!!」を参照すること)



「試練が人を育てる」とは、古今東西多くの人類の賢人や偉人たちが口にしている言葉です。**学力は、「欲」から生まれ、「欲」を満たすために、その人が何かに立ち向かったときに発生する試練によって、鍛えられ育てられるものなのです。**

しかし、今の日本社会はハード面からもソフト面からも子どもたちの「欲」を剥ぎ取る(「欲」を持ちにくい)ような環境になってしまっています。《ハード面:何でも手に入る ソフト面:大人が子どもの障害を取り除き、苦勞させたり工夫させたり心を奮い立たせたりする機会を奪っている》

言ってみれば、「欲が育ちにくい子育て」を日本はしてしまっているのです。そしてさらに、子どもたちが挑む必要がある試練を大人が取り払うために、本当の意味の学力も育ちにくくなっているのです。

だからみなさん、中学生の今からでも、**自分の中に「欲」を育て、その「欲」を叶えるための自己努力心(＝自発的な学習動機＝学力)を、あなた自身の中に育てていってください。そして、大人の手をできるだけ借りずに努力してください。その心と姿勢があなたの強い学力を育てます。**これは、みなさん自身が、自分で行うしかありません。誰もあなたに代わってそれをする事が出来ないのです。どうかどうか、あなた自身の力で、強い学力をあなたの中に育てていってください。

(学校は)

学校はそれを支援ところです。それが教師の仕事だと私は思っています。

「学習する原動力となる学習の理由を育てることが、学力を育てること」であり「その理由をあなたの心に育てるのが教師の仕事」であると思っています。

そして**学校が為すことは、学校の教育活動のすべてを通じて、あなたの学力を生み育てること**です。

あなたが学校で過ごす時間の大半が授業で、各教科の基礎的内容を学ぶためにあります。基礎的内容の学習は、あなたに知恵と知識を持たせるためのものです。これまで人類が築いてきた学力から生まれた結晶を学んでいるのです。

学校は、あなたの学力を育てつつ、人類が築いてきた学力の結晶を知識や体験として伝え、あなたが、さらに大きな結晶を築くことを容易にするのを支援するところなのです。



※. 難しかったと思いますが、少しは学校や先生の役目、そしてみなさん自身ががんばることが見えたでしょうか。